別紙様式３

平成 20　年度　博士前期課程学位論文要旨

訪問リハビリテーションにおける PT・OT が考える専門分野と協業の必要性に関する調査研究

学位の種類：　修士（　　理学療法　　学）
人間健康科学研究科　人間健康科学専攻　　学修番号 06895607
氏　名：中島　愛
（指導教員名：　池田　誠　　）

注：1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で、本様式１枚（Ａ４版）に収めること

【目的】

本研究では訪問リハにおける PT・OT の協業体制の必要性を明らかにすることを目的とした。なお、協業とは 1 つの目的を達成するために他職種と協力して働きかけることであり、本研究における協業とは時間経過や状況によって変化する医学的管理、PT と OT のニーズ、利用者・家族のニーズに対して最適な職種が対応し問題、課題を解決するシステムのこと、とする。

【方法】

東京都内で訪問リハに携わる PT、OT、Ns.、および利用者を対象に、郵送によるアンケート調査を実施した。

分析方法　1）利用者に対して実施した 100 問の質問を利用者ニーズの高かったものから順に並べた。2）残った項目のうち、PT・OT のいずれかの職種が「PT 専門分野」「OT 専門分野」「PT・OT 共通分野」と答えた項目を抜き出した。　3）残った項目に対し χ^2 検定（Pearson の検定）を実施した。

【結果】

各職種とも PT・OT の専門性を重視した協業を行う必要性を理解しているが、施設のルールとしてはほとんど整備されていない現状が明らかになった。また、利用者ニーズは歩行や機能障害の改善に関する項目で高く、ADL や趣味活動に関する項目は下位であった。PT の専門分野は①下肢・体幹の機能障害、②歩行能力、③起居動作、④呼吸に関する項目であり、OT の専門分野は①ADL、②趣味に関する項目であった。PT・OT 共通分野は①買い物に行きたい、旅行に行きたい、などの多くの要素から成り立っている動作や②病気や治療法について相談に乗ってほしい、介護保険などの制度について教えてほしい、といった項目であった。

【考察】

知識不足の状態でリハを担当することは大きな危険に繋がっていることや、訪問 PT の効果を考えれば、PT・OT の協業体制にて業務を行うことが妥当であろう。トイレ動作 1 つを見てもベッドから起き上がり、トイレまで移動し、ズボンの上げ下げを行う、など多くの要素から成り立っていることは当然である。対象者の問題を解決するには、動作を困難にしている原因を細かく分析し、その原因に対して各専門職が最適な情報や技能や資源を互いに出し合って、共有し、活用することが求められる。訪問する職種や回数等は、その時々の医学的状態やニーズに合わせて見直されるべきであろう。